

重要文化財

旧片山家住宅



岡山県高梁市

◆備中吹屋と旧片山家の歴史

	西暦	吹屋のできごと	片山家のできごと
江戸	1638	吉岡銅山が天領となる	
	1684	住友家による吉岡銅山開発	
	1707	このころ弁柄製造はじまる	
	1759		初代浅治郎が弁柄屋をはじめる
	1761	緑鑿（硫酸鉄）による弁柄生産確立	
	1777		相山に弁柄工場建設
	1798	弁柄株仲間できる	
戸	1830		二代浅治郎が仏間・宝蔵を増築
	1848		三ノ市に弁柄工場新設
	1855		三代浅治郎が緑鑿生産をはじめる
	1857		苗字帯刀を許される
	1860		このころ弁柄蔵・仕事場及び部屋を増築
明治・大正	1873	岩崎家による吉岡銅山開発はじまる	
	1875		四代浅治郎が座敷を増築
	1878		内国博覧会で一等受賞
	1898		このころ弁柄箱・道具蔵・玄米蔵を増築
1901	町制施行により吹屋町となる		
昭和	1929		八代茂三が吹屋町長を務める
	1934	吹屋大火	
	1950	吹屋弁柄工業協同組合 設立	
	1951		九代浅治郎が吹屋町長を務める
	1955	成羽町と合併する	
	1971		弁柄屋廃業
和	1974	岡山県ふるさと村に指定される 弁柄製造 終わる	
	1977	重要伝統的建造物群保存地区に選定	
平成	2002		十代文秀が家屋を成羽町に寄贈
	2004	高梁市となる	
	2006		重要文化財に指定される

◆備中吹屋へのアクセスとご案内図



お問い合わせ先

高梁市成羽町観光協会吹屋支部 Tel.0866-29-2222
高梁市教育委員会社会教育課 Tel.0866-21-1516

旧片山家住宅へようこそ

旧片山家住宅は、平成14年に所有者から成羽町（現高梁市）へ寄贈を受け、重要伝統的建造物群保存地区の中核的な建物として、平成15年から平成21年まで保存修理を行いました。全ての保存修理の完了を機に、平成22年4月から全体を公開しています。

片山家は、宝暦9年（1759）の創業以来、200年余りにわたって吹屋弁柄の製造・販売を手がけた老舗です。その家屋は、弁柄屋としての店構えを残す主屋とともに弁柄製造にかかわる付属屋が立ち並ぶ「近世弁柄商家の典型」として高く評価され、平成18年12月、国の重要文化財に指定されました。



主屋の内部



付属建物の外観

建物の配置



片山家と吹屋弁柄

宝永4年(1707)にはじまったとされる吹屋の弁柄生産は、宝暦11年(1761)頃に緑礬を原料とする製法が確立されて本格化しました。早くから弁柄製造を手がけた片山家(胡屋)は、窯元として弁柄仲間の株を永く保ち、大塚・広兼・長尾家とともに苗字帯刀を許されるまでになりました。安政2年(1855)には緑礬の製造にも乗り出して、最盛期には3つの工場を経営し、その製品は建材や家具の塗料、陶磁器や漆器の顔料として国内に広く流通しました。しかし、昭和26年に緑礬の生産が途絶えると、弁柄製造は次第に衰退します。その後も合成された硫酸鉄を原料として生産が続けられましたが、片山家は昭和46年(1971)に弁柄屋を廃業、その3年後には田村家も弁柄工場を閉鎖して、260年余りにわたり一世を風靡した吹屋弁柄はその幕を閉じました。

部分が重要文化財



片山家で製造された弁柄



ポスターに描かれた旧片山家住宅(明治時代初期)



ポスターに描かれた片山家の弁柄製造工場

◆ 胡屋のポスター

胡屋のポスターには、片山家の工場、鉾山の様子や片山家住宅の通りに面した外観が描かれています。これらのポスターから弁柄製造工場や片山家住宅の当時の様子をうかがうことができます。

赤い石州瓦で葺かれた二階建(一部三階建)の主屋は江戸時代後期に建てられた後、江戸時代末に仏間、明治時代には座敷が増築され、片山家が弁柄商いによって隆盛していく様を今に伝えています。

また、通りに面した外観は、一階に腰高格子を飾る袖壁や繊細な出格子を配し、二階を海鼠壁で仕上げるなど、吹屋の町並の中でもひととき意匠を凝らしたつくりとなっています。内部は、一階を店舗や接客の場にあて、二階を寝室や物置に使用しています。接客の場



ある座敷には、銘木がふんだんに用いられるとともに、美しい電灯や見事な欄間、優れた意匠をもつ釘隠や襖の引き手などにも見られます。また

通り土間に面した店の間や台所などは、当時の商家のたたずまいをよく伝えています。

このように旧片山家住宅は吹屋弁柄が栄えた江戸時代後期～明治時代の屋敷構えをよく残しており、吹屋の歴史的な町並景観を語る上で欠くことのできない存在と言えるでしょう。

旧片山家住宅の見どころ

